



農事組合法人「伯耆の郷」

質問 「伯耆の郷」の設立目的と経緯を教えてください。

回答 今年二月、遠藤集落農家三十六戸のうち、二十八戸の農家が結集。出資金を募り、法人を設立。二十町歩の水田を管理。集落営農の活性化を目指しています。

今年度、町からの支援を受け、遊休中の土地建物を買い上げたこと、事務機器等を組合員で持ち寄り拠点をつくりました。水稲苗七百五十箱つくりから共同作業で田植えが終わったところです。

今後、コンバインや籾乾燥設備、精米設備、玄米保冷設備を整える計画です。現在コシヒカリが大半ですが、作業の分散化から複数品種の作付と減反ほ場では、大豆、野



菜のほか、飼料稲、飼料米、白ネギ、花き等、現在普及所の知恵も借り、玉ねぎ等にも取り組みたいと計画中です。そのため、JA、農業振興公社との連携を図り、産地化を推進する予定です。

質問 法人「伯耆の郷」設立のきっかけは何でしたか。

回答 高齢化が進み、耕作放棄地が発生、農地の売却も始め、個々の農家では解決できない課題を組合員の知恵と力を結

集し、農家も集落もよくなる農業、集落づくりをしよう、集落営農検討委員会を平成十九年八名で発足、先進地、寺内農場、岩屋谷農場を視察、研修し、今年二月、発起人会で事業計画、定款、理事、役員選定後、設立総会を行ったところです。

代表理事

勝部明吉さんのお話

私自身、父が亡くなり、二十年間仕事のため離農していて、退職を機にこの仕事に加わりました。農家は、他の仕事で稼

いで農地を守っています。就業中には、自分だけではどうにもならないさまざまな状況が生まれます。そこを次の世代に引継ぎの手助けが必要なのです。集落のみんなが豊かに暮らせるよう、役割が果たせたらと思っています。

出席して

下さったみなさん

代表理事 勝部明吉
理事 広山美樹
加川賢明



「議会だより」に対するご意見をお待ちしております。

編集後記

農業法人が又一つ設立された。遠藤集落である。法人・組合と組織形態はちがうが、少しずつ組織化されつつある。「危機感」故の取組みだと思ふ。まちづくりの一步は、町民個々の財産が守られる安心感があつてこそ踏み出される。財産を守るか…。あきらめるか。危機感はあるが、対応は集落でちがう。日本の農政が不安定な中、まちづくりには欠かせない農業を、町政でどう補っていくか、役割が問われる。

大森 英一

【編集】

議会広報特別委員会

- 委員長 大森 英一
- 副委員長 渡部 勇
- 委員 幅田千富 美
- 委員 幸本 元
- 委員 勝部 俊徳
- 委員 篠原 天